

明るい子 かしこい子 たくましい子

元気がある 夢がある 楽しい学校 中央小



中央小だより

令和6年度 7月号

蕨市中央6-8-25

TEL 442-2672

児童数	(名)
計	385

中央小学校で学ぶことの誇り～校章が語りかけるもの～

校長 はらだ たくじ 原田 卓治

先月5年1組で道徳の公開授業が行われ、私も参観いたしました。教材は「シンボルマークにこめられたものは」という題材で、国や郷土を愛する態度を育むことを目標に学ぶものです。本題材を学ぶことを通して、自身が伝統や文化を受け継ぎ、積極的に地域に関わっていこうという気持ちを持たせていくことが学習のねらいでした。児童は、学習の過程で教科書の題材から離れ、蕨市の市章がどんな願いが込められているかを多様に考え、「輪が人とのつながりを大切にしていると思う」、「緑の色が自然豊かな町でありたいという願いがあると思う」等、根拠をもって蕨市住民としての願いを考えており、感心しました。

ところで、公開授業の前に担任からリクエストがあり、その公開授業で、本校校章の由来を児童に説明して欲しいと頼まれた私は、早速校章の由来について調べてみました。しかし、手元にある様々などの資料にも校章の由来にあたるものは見つかりませんでした。

そこで私は、校章がもつ願いを、児童と同じように自分なりに解釈して、伝えることにしました。

まず、校章にある6本(3組)の植物は「わらび」しかも早々に芽吹いた子どもを象徴する「さわらび」であるのではないかということ。そして、その3組の意味するものは、学校目標の「明るい子、かしこい子、たくましい子」を表しているのではないかということ。つまり、この校章そのものが、「明るく、かしこく、たくましい」中央小の一人ひとりの子どもを表すのではないかということ。

そして、校歌。「春の野に出るさわらびは 小さいながらも一心に 大空仰いで 根を張って いつか大地を占めていく」の歌詞にあるように、中央小の児童はさわらびのようにまだ小さいけれど、「明るく、かしこく、たくましく」中央小で学び、その一人ひとりが、蕨に、埼玉県に、日本に、そして世界に根付いて、どんどんその地に素晴らしい影響を与えていく、そんな壮大な願いが込められているのではないか。

中央小での学びが礎となり、児童がその後も学び続け、やがて大人になり、活躍の地は違えども、この世界に素晴らしい成果をもたらしていく、そんな壮大な姿を中央小学校創立時の方々は思い描いていたのではないか。これが、今回この校章の由来について、自分なりに考えた末に行きついた答えでした。そして子どもたちには、「これは私の考えで答えはわかりません。けれども皆さんが今日考え学んだように、その校章が表す願いを自分なりに解釈して行きついた答えがこれです。」と話しました。

文学作家が自身の作品を世に放った瞬間、それはもう作家の手から離れ、その解釈は、おのおのその作品を受け取った読み手に委ねられます。

本校の校章の由来が明確にわからない以上、その願いや思いは、中央小で学び育っていく子どもたちに委ねられていくのだと思います。

私は、子どもたちが自分達なりに根拠をもってこの校章が表す願いや思いを解釈し、中央小で学んでいることを誇りに思い、またその願いや思いに恥じぬよう、学び続けてもらいたいと願っています。